



建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2)

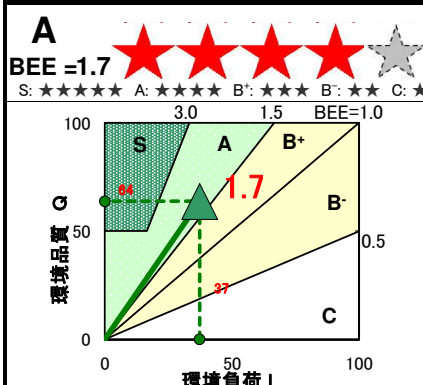
1-1 建物概要

建物名称	ミズノ株式会社/(仮称)新研究開発拠点新築工事		
建設地	住之江区南港北1丁目		
建築用途	事務所・その他(スポーツ研究施設)		
建築主	美津濃株式会社		
設計者	(株)日建設計		
敷地面積	15,539.94	m ²	
建築面積	3,393.23	m ²	
延床面積	6,403.10	m ²	
構造/階数	S造	/	地上2階
完了年(予定)	2022年8月		

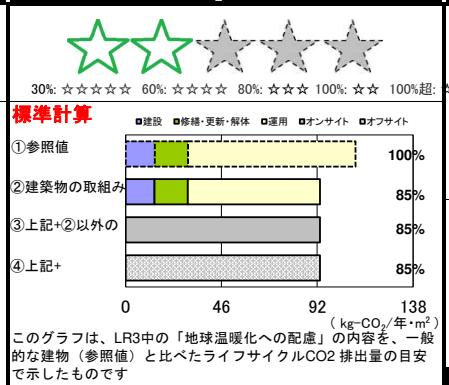
1-2 外観



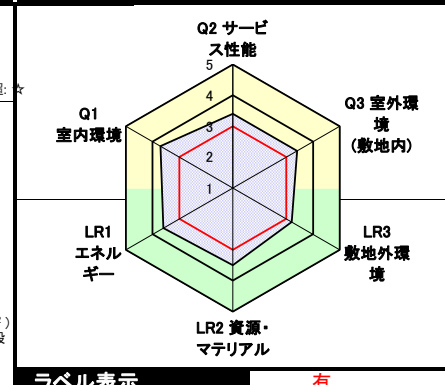
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



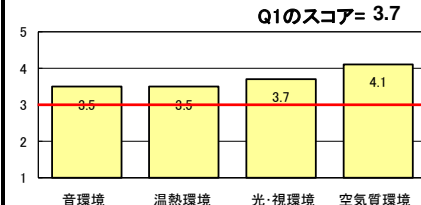
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



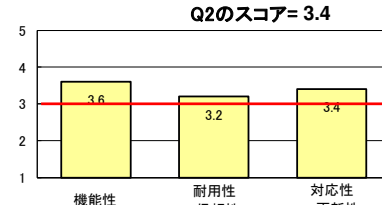
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

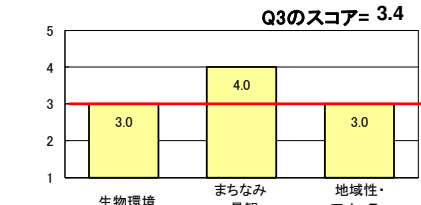
Q1 室内環境



Q2 サービス性能

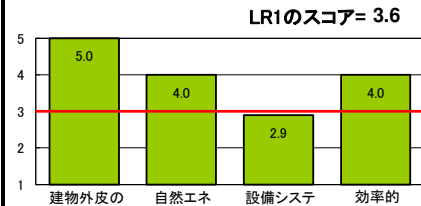


Q3 室外環境(敷地内)

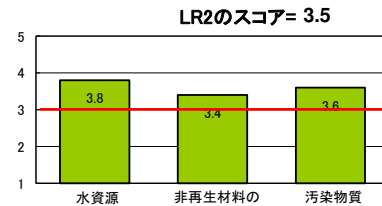


LR 環境負荷低減性

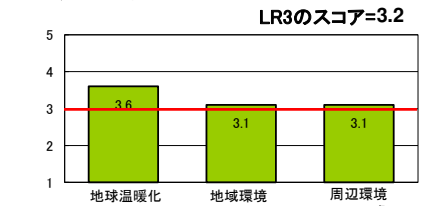
LR1 エネルギー



LR2 資源・マテリアル



LR3 敷地外環境



3 設計上の配慮事項

総合

本計画はスポーツの力で社会課題を解決する社会イノベーション創出を目指した施設計画としている。
建物内部はフレキシビリティの高いオープンな執務スペースや社内外との交流の場を設け、イノベーションが生まれる空間としている。

その他

特になし。

Q1 室内環境

高い外皮性能を有し、室内温熱環境の悪化を抑制する計画としている。
内装材にはF☆☆☆☆の建材を採用することで、空気環境の向上に努めた計画としている。

Q2 サービス性能

主要な配管には耐用年数の長いものを採用して建物性能としての耐用性向上をはかっている。
また、階高にゆとりをもたせることで、用途変更や設備システムの変化に柔軟に対応できる計画としている。

Q3 室外環境(敷地内)

建物周囲を緑化することで、従業員の憩いの場として機能する計画としている。
また、地区計画により、歩行者の通り抜け空間、壁面後退を厳守した配置計画としている。

LR1 エネルギー

Low-Eガラス、外皮の高断熱化を図ることで熱負荷を抑制している。
また、雨水の再利用や、ハイサイドライトを採用することで自然エネルギーを活用する計画としている。

LR2 資源・マテリアル

リサイクル材の採用、解体時のリサイクルを促進する部材や工法の採用による非再生資源使用量削減に配慮した計画とする。
また節水器具採用・有害物質を含んだ材料の使用を避けることで環境負荷削減務める計画としている。

LR3 敷地外環境

省エネルギー設計から、運用時の二酸化炭素排出量低減を図り、地球温暖化防止に努めている。また周辺での交通渋滞や廃棄物処理へ配慮することで、地域インフラに与える負荷を低減するよう努める計画としている。

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.7

ラベル表示



環境性能	評価点
(1)CO ₂ 削減	4.0
CO ₂ 削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮 3.6
配慮事項	省エネルギー性能向上に努めることで、建物から排出される二酸化炭素を抑制し、地球温暖化抑制に寄与する計画としている。

環境性能	評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策	3.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能	概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出 3.0
Q3 / 3 / 3.2 /	敷地内温熱環境の向上 3.0
LR3/ 2 / 2.2 /	温熱環境悪化の改善 3.0
配慮事項	敷地内に良好な植栽を計画し、有効な風を導くよう建物を配置する計画とする事で敷地内の温熱環境悪化を抑制する計画としている。

環境性能	評価点
(3)建物の断熱性	5.0
CO ₂ 削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制 5.0
配慮事項	高い外皮性能を有し、室内温熱環境の悪化を抑制する計画としている。

環境性能	評価点
(4)エネルギー削減	3.0
CO ₂ 削減に配慮した環境性能	概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化 2.9
配慮事項	高効率空調機器、LED照明の採用によるエネルギー消費量低減をはかる計画としている。

省エネルギー基準計算結果

基準
適合状況

適合

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
 ※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること（新築時）
 （基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること）

外皮性能

住宅部分（品確法等級）

-

（相当）

非住宅部分[BPI][BPI_m]

0.72

建物全体[BEI][BEI_m]

一次エネルギー消費量

0.81

住宅部分[BEI]

-

非住宅部分[BEI][BEI_m]

0.81